

事業報告書

第 5 期

自 2025年4月1日

至 2026年3月31日

特定非営利活動法人FutureSeeds

岩手県盛岡市緑が丘二丁目14-22

2025年度 事業報告書

2025年4月1日～2026年3月31日
特定非営利活動法人FutureSeeds

1. 活動のまとめ

当法人は、こども及びその保護者が家庭環境、病気、障害の有無等に左右されず、地域で自分らしく生活できる社会の実現を理念に掲げ、「こどもの健全育成事業」「こども及び保護者の居場所づくり事業」「子育て支援事業」に取り組んでまいりました。

2025年度は、不登校児童生徒の居場所づくりとして「フリースペースたきざわスポラ」を継続運営いたしました。また、食のセーフティネットとして、ひとり親家庭及び奨学生を対象に食料品等を無償提供する「コミュニティフリッジ」を新たに盛岡市へ新設。これにより、既存の滝沢市・八幡平市と合わせ、計3拠点での運営体制を構築いたしました。さらに、2025年7月からは滝沢市より「子育て世帯訪問支援事業」を受託し、養育に不安や課題を抱える子育て世帯を訪問のうえ、相談支援や家事援助などを実施いたしました。

こどもが不登校になることで、こどもを取り巻く環境は劇的に変化し、本人や保護者が抱える課題は多様化・複雑化していることを改めて実感しております。2026年度も引き続き、地域の皆様とともにこどもや保護者の心に寄り添う活動を継続してまいります。

＜重点目標と成果＞

【こどもが安心できる居場所の提供】

不登校児童生徒の居場所となるフリースペースを運営しました。いじめ、学校や家庭内での人間関係の不和など、一人ひとりが様々な背景を抱える中、当スペースでは特に「生活支援」に重きを置いた個別アプローチを行いました。

その結果、通所を通じて生活リズムが整い、少しずつ学習に取り組む時間が増えたり、日によっては学校へ登校できたりするようになるなど、ポジティブな変化が見られています。目的を持たずにただ時間を過ごしていたこどもたちが、個々の特性や状態に合わせた丁寧なサポートを受けることで、少しずつ興味の幅を広げ、新たなことにチャレンジしていく過程を支えてまいりました。

【連携体制の構築】

行政機関、教育機関、医療機関、そして民間企業との連携・協働を推進いたしました。定期的なケース会議の実施や迅速な情報共有により、「対象のこどもにとって今どのような支援が必要なのか」を多角的に考え、迅速に対応にあたる基盤が確立されつつあります。関係機関がそれぞれの専門性を活かして役割分担をしながら関わることで、こどもに過度なストレスをかけることなく、個々の状況に最適化されたシームレスなサポートへとつながっています。

【地域人材・次世代育成】

当法人の活動やボランティアへ参加する機会を継続的に提供することで、市民や学生が普段の生活では見えにくい「地域の社会課題」に触れ、市民活動へ参画するきっかけを創出しました。多くの方々が身近に存在する社会課題に関心を持ち、主体的に関わることで、誰もが暮らしやすい地域づくり（地域共生社会の実現）への機運を高めています。

2. 事業報告

（1）こども及び保護者の居場所づくり事業（こどもの居場所づくりプロジェクト）

【事業内容】

★フリースペースたきざわスポラ

- ・日時：毎週火曜・水曜・木曜 9時～15時
- ・場所：岩手県滝沢市砂込389-18 馬っこパーク・いわて内
- ・対象：何らかの理由で学校に通うことが難しい小学校1年生から高校3年生まで
- ・内容：生活支援に重きを置きながら、学習支援、体験学習、探究学習の機会を提供。ひとり親家庭など経済的困難を抱えるこどもを優先的に受入。
- ・体制：有給スタッフ8名（うち5名が学生スタッフ）、ボランティアスタッフ延べ294名

【目標】

- ・経済的な課題があっても利用できる居場所を提供
- ・こどもが安心して利用できる自分の居場所を提供する
- ・こどもの自己肯定感と自己有用感の向上につなげる

【実績】

- ・開所日数：149日
- ・利用者数：延べ951名
- ・相談件数：1,148件

【成果】

- ・生活支援を軸とした個別アプローチにより、通所を重ねる中でこどもたちの生活リズムが安定し、学習へ向かう意欲や、日によっては学校へ登校できるといった前向きな行動変容が見られた。
- ・個々の特性や状態に合わせた丁寧な伴走支援を行うことで、当初は目的を持てずに過ごしていたこどもたちが、自発的に興味を持ち、新しい活動へチャレンジする姿（自己肯定感や自己有用感の向上）が確認できた。
- ・行政、教育、医療などの関係機関や民間企業との多角的な連携基盤が整備され、定期的なケース会議や迅速な情報共有を通じて、個々の状況に応じた最適なサポートをストレスなく提供できる体制が構築できた。

【課題】

- ・不登校の背景にある家庭環境の劇的な変化や、こども・保護者が抱える複合的な課題（メンタルヘルスや経済的困窮など）の多様化・複雑化が進んでおり、さらに専門的かつ長期的な相談支援体制の強化が求められている。
- ・民間主導のフリースペース運営における財政基盤の安定化（恒久的な財源確保）が急務である。今後は当法人単独の取り組みに留まらず、地域の多様な関係者・団体と協働しながら、自治体等に対する支援の「制度化」に向けたアドボカシー活動（政策提言や地域への働きかけ）を積極的に展開していく必要がある。
- ・学生ボランティアを含めた現場スタッフへの継続的な研修やサポート体制をより充実させ、複雑化する相談ニーズに対して安定した支援の質を維持・向上させていくことが今後の課題である。

（２）子育て支援事業（いわて子育てサポートプロジェクト）

★コミュニティフリッジ（もりおか・たきざわ・はちまんたい）

【事業内容】

- ・日時：24時間365日
- ・場所：盛岡市、滝沢市、八幡平市の計3箇所 ※詳細は非公表
- ・対象：ひとり親家庭のこども及び奨学生など
- ・内容：企業や地域住民から寄付された食料品や日用品を、専用倉庫（コミュニティフリッジ）を通じて無償で提供し、生活困窮世帯の食支援および安心感の醸成を図る。
- ・体制：有給職員5名、ボランティアスタッフ延べ534名

【目標】

ひとり親家庭のこども及びその保護者の社会的孤立の防止及び抱える課題の早期発見と深化防止

【実績】

拠点名	登録者数	利用者数（延べ）	提供品数
■ 3拠点トータル	1,551名	9,639名	33,954点
① コミュニティフリッジもりおか	765名	5,421名	20,304点
② コミュニティフリッジたきざわ	612名	2,478名	9,188点
③ コミュニティフリッジはちまんたい	174名	1,740名	4,462点

【成果】

- ・盛岡市・滝沢市・八幡平市の3市にまたがる広域的な食のセーフティネット網を確立し、前年度を大きく上回る延べ9,639名もの利用者へ確実な支援を届けることができた。
- ・年間で3万点以上の食料品や日用品を無償提供できたことは、物価高騰に直面するひとり親家庭や奨学生の家計負担を直接的に軽減し、地域における生活の安定に大きく寄与した。

- ・コミュニティフリッジという場を通じて、地域の企業や市民からの「お互い様」「恩送り」の善意（寄付）が循環する持続可能な仕組みが地域社会に深く浸透してきている。

【課題】

- ・利用登録者数の増加に伴い、主食類（米やレトルト食品）や日用品などの需要が急速に高まっており、年間を通じて在庫を枯渇させないための安定的なサプライチェーン（企業や生産者との継続的な連携）の更なる開拓が必要である。

★子育て世帯訪問支援事業（滝沢市受託事業） ※受託事業のため、成果・課題は省略

【事業内容】

- ・期間：2025年7月から2026年3月
- ・対象：滝沢市内の子育て世帯
- ・場所：滝沢市内
- ・内容：こどもの養育に不安や課題を抱える子育て世帯を訪問し、相談支援および家事援助などを実施

（3）こども健全育成事業（こどもチャレンジプロジェクト）

【事業内容】

- ・対象：概ね小学生以下のこどもとその保護者
- ・内容：関係機関や地域企業、教育機関と連携し、体験型イベントを通してこどもたちに多様な体験の機会を提供する。
- ・体制：ボランティアスタッフ 延べ103名

【目標】

- ・生活環境や障害、病気の有無にかかわらず、すべてのこどもたちに豊かな体験の機会を提供する。
- ・地域社会との接点を増やし、親子が安心して楽しめる賑わいの場を創出する。

【実績】

- ・2025年5月3日・4日 あそびパーク（会場：馬っこパーク・いわて）
- ・2025年8月9日 学生が〇〇やってみた（会場：ベルフ青山）
- ・2025年10月10日～19日 フードロスイベントブース出展（会場：イオンモール盛岡）
- ・2025年11月24日 ワクワク子育てフェス（会場：馬っこパーク・いわて）
- ・2026年3月14日・15日 学生が〇〇やってみた（会場：ベルフ仙北・ベルフ青山）

【成果】

- ・年間を通じて、商業施設や地域の公園などアクセスの良い多様な会場でイベントを開催。障害の有無や家庭環境に関わらず多くのこどもたちへ多様な体験の機会を広く届けることができた。

- ・延べ103名ものボランティアスタッフ（学生等）が企画・運営に主体的に関わったことで、次世代の地域人材の育成につながるとともに、地域住民や企業に対して当法人の活動や社会課題への理解を深める契機となった。
- ・イオンモール盛岡でのフードロスイベント出展など、企業や商業施設との連携により、普段市民活動に馴染みのない層へもこどもの健全育成や環境意識に関する啓発を行うことができた。

【課題】

- ・単発のイベント開催に留まらず、イベントを通じてつながった困りごとを抱える世帯を、フリースペースやコミュニティフリッジなどの常設の支援事業へシームレスにつなげていくためのフォローアップ体制の構築が求められる。
- ・企業や行政、学校等の関係機関との連携をさらに深め、イベントの継続的な開催に向けた資金確保や協賛・協力体制のさらなる強化必要である。

（４）ボランティアの受け入れ状況

【実績】

対象事業	参加人数（延べ）	活動時間
こども及び保護者の居場所づくり事業	294名	511時間
子育て支援事業	534名	767時間
こどもの健全育成事業	103名	255時間
合計	931名	1,533時間

【成果】

- ・すべての事業を合わせて延べ900名を超える多くの一般や学生等にボランティアとして関わっていただき、地域の社会課題解決や市民活動への参画を促す重要なプラットフォームとして機能した。
- ・ボランティアの積極的な協力により、フリースペースでの手厚い個別サポートや、複数拠点にまたがるコミュニティフリッジの運営など、各事業における支援の質を維持・向上させることができた。

【課題】

- ・非常に多くの方に参加いただいた半面、個々のボランティアに対する事前のオリエンテーションや当日の配置・指示など、受け入れ態勢が必ずしも万全ではなかった点が挙げられる。今後は、受け入れ側のコーディネート体制の整備が必要である。
- ・単発の参加に留まらず、参加者に継続してリピート（定着）していただけるよう、法人の活動目的への理解を深める研修や、やりがいを実感できるようなボランティアプログラムの開発・工夫が求められている。

3. 事業の実施に関する事項

(1) 会員・登録者状況

区分	実績値
① 正会員	10 名
② ボランティア会員	283 名
③ 公式アカウント登録者	880 名